

2010年12月期 期末株主通信

SBSビジネスレポート

2010年1月1日～2010年12月31日 証券コード:2384



SBSホールディングス株式会社

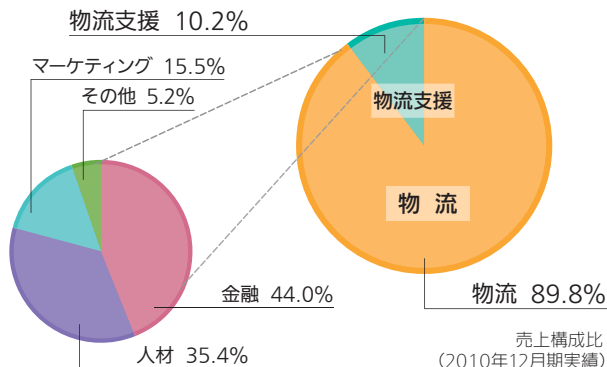
SBSグループ

SBSグループは、あらゆる物流ニーズに優れた品質で対応します。



売上の構成

主力の物流事業に物流支援事業を加え、付加価値の高い物流サービスを提供



当期の目標

新規営業開拓の推進と
ローコストで高品質な物流サービスの提供

2011年重点施策

- 事業戦略の強化
- 海外戦略の推進
- 投資戦略の遂行
- 基盤戦略の実施

2011年計画

売上高	営業利益	売上高営業利益率	1株当たり配当金
1,200億円	35億円	2.9%	3,000円

※本資料の将来の見通しに係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確かな要素を含む仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。



基礎固めが完了したため、 今年からは攻めのスピードを、 加速させていきます

代表取締役 鎌田 正彦

Q

前期(2010年12月期)の
業績について教えてください。

A

上期は順調に推移しましたが、下期は急激な円高の影響などがあり、厳しい状況となりました。しかし、物流施設の流動化が寄与したことでグループ全体では増益となり、利益予算を達成することが出来ました。また倉庫内オペレーションの効率化などグループ全体でコストダウンを図ったことや、営業力の強化も増益の要因です。営業利益は前期比47.6%増、当期純利益は7.7%増となり、厳しい環境下でも収益を増やすことが出来ました。

Q

物流業界の動向はいかがでしたか？

A

円高の高進とデフレの長期化を背景にお客様からのコスト削減要求はこれまで以上に厳しくなっており、暫くはこの流れが続くものと見ています。物流業者間の競争は激しさを増し、2010年には物流事業者数が減少に転じました。今後、再編や合従連衡が進み、生き残り競争が一層厳しくなるものと考えています。

Q 激化する競争が
SBSグループに与える影響は？

A マイナス面だけではありません。物流業界の競争が厳しくなり再編などが進むことは、事業規模を拡大するチャンスでもあります。今後は物流子会社の売却などが活発化し、優良な案件が出てくることが予想されます。物流事業者にとって事業規模を拡大することはお客様の信頼につながりますので、この機を逃さぬよう業界を注視してまいります。

Q 再びM&Aを進めるのですね。

A ここ数年は1000億円企業としてコンプライアンスの強化や、管理体制の充実を図るためM&Aを手控えてきましたが、ようやく攻める体制が整いました。相手企業の経営

マインドが我々と融合出来るか、シナジー効果が高いかなどを見極め、M&Aに取り組んでまいります。昨年の2件に続き、今年は国内外を問わず、複数のM&Aを実現したいと考えています。

Q 海外への展開も行うのですか？

A アジア地域を考えています。中国を中心に日本企業も相当数進出しており、国内のお客様のニーズに対応し生き残るグループになるためにも、国際物流の強化は必要と考えています。そのために、海外企業の買収や資本提携により橋頭堡を作り、将来を見据えた海外展開を進めてまいります。拡大し続けている中国は無論のこと、今後、大幅な市場拡大が予想されるインドやASEAN諸国などの企業も視野に入れています。

Q

最後に、株主の皆様への
メッセージをお願いします。

A

約3年をかけて行ったグループの基礎固めがほぼ完了したことで、今年からはスピードを上げて攻めてまいります。全方位の物流機能を有する3PL企業集団をめざし、3PL提案営業ができる人材の育成と、徹底したローコストオペレーションを提供できる体制の確立を図ります。また、事業規模を拡大する上で有効なM&Aや施設開発などの投資は、財務健全性とのバランスを意識して実施し、安定した財務基盤に配慮した運営を行ってまいります。加えて、社会から信頼される企業グループとして、安全対策や環境保全など、CSR経営をさらに強化いたします。株主の皆様には、企業価値を一層向上させ、株価の上昇や配当といった形で還元してまいります。是非とも、ご期待ください。



2010年 SBSグループトピックス

4月 M&Aにより 電機メーカー系物流分野を拡大

(ティーエルロジコム)

日本ビクター様の物流子会社「ビクターロジスティクス(株)」をグループ化、電機メーカー系物流分野の拡大を狙う。



7月 M&Aで通関專業会社をグループ化 国際物流拡大へ布石

(ティーエルロジコム)

輸出入通関業務に特化した(株)エイシーシステムコーポレーションをグループ化し、国際物流拡大への布石を打つ。



5月 新型スカイライナー車両の 輸送完了

(ティーエルロジコム)

京成電鉄様が「成田スカイアクセス(7月開業)」に投入する新型スカイライナー車両を2月から3か月間で3編成24両の輸送を完了。



7月 VLロジネット新センター稼働、 ケンウッド様3PLを開始

(VLロジネット)

ビクターロジスティクス(株)はVLロジネット(株)に商号変更。東扇島に新センターを稼働させ、日本ビクター様に加えケンウッド様3PL業務を開始。



6月 SBSグループ、 物流合理化賞を3年連続受賞

全日本物流改善事例大会2010にてティーエルロジコムが物流合理化賞を受賞。SBSグループは同大会初の3年連続で同賞受賞となる。



7月 参議院新議員会館の館内物流開始

(ティーエルロジコム)

参議院の新しい議員会館にデリバリーセンターを開設し、集荷・配送される宅配物などの一括管理と共同集配を行う館内物流業務を開始。



9月 従業員持株会信託型 ESOP導入

信託の仕組みを使った従業員持株制度（日本版ESOP）を導入。福利厚生を拡充して従業員の士気高揚を図る。



9月 施設流動化により 財務基盤の健全化推進 (エーマックス)

埼玉と千葉の物流施設をシンガポール政府系リート会社へ売却（流動化）。資金回収で財務基盤の健全化を推進。



11月 エコキャップ回収活動を グループ全体に拡大

ペットボトルのキャップを回収し資源再利用により世界の子供達にワクチンを送る社会貢献活動をグループ全体に拡大、1年間で17万個を回収。



12月

SBSグループ

CSR報告書2010発行のお知らせ

SBSグループは、社会インフラを担う物流事業者として、社会的責任の重要性を認識し、CSR経営を着実に推進することで、豊かな社会の実現に貢献します。



当社グループの社会的責任に対する取り組みをお伝えするため、昨年2009年に初めて「環境報告書」を発行し、2年目となる2010年は「CSR報告書」として発行いたしました。

本報告書では「コーポレートガバナンス」、「安全への取り組み」、「環境とのかかわり」、「社会とのかかわり」について、実際の活動事例などを紹介しながら、わかりやすく取り組みを説明しております。

- CSR報告書は、SBSホールディングスのウェブサイトからダウンロードできます。ご参照ください。

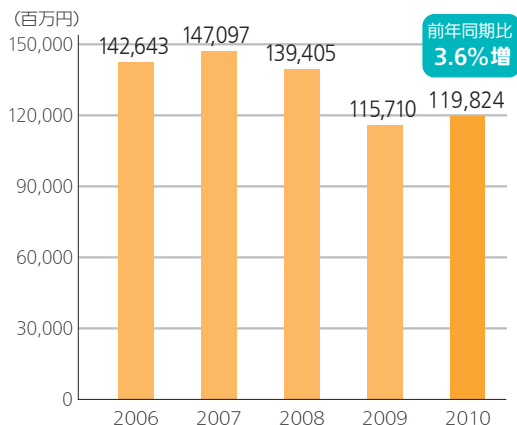
<http://www.sbs-group.co.jp/eco/img/eco2010.pdf>

当期の連結業績

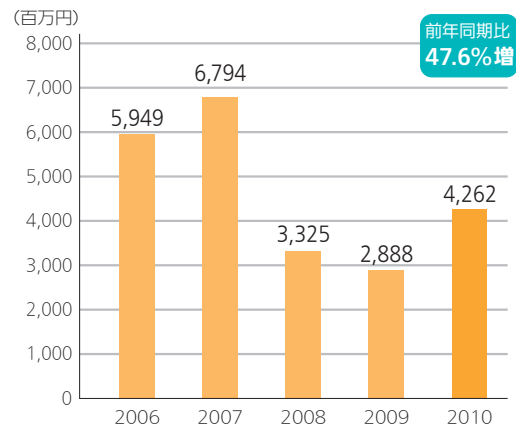
CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

厳しい経営環境が続くなか、新規顧客開拓などの業容拡大とコスト削減により、収益の向上に取り組みました。また重要な成長戦略のひとつであるM&Aにも取り組んだ結果、売上高は前年同期比で増加しました。コスト削減策の徹底も寄与し、営業利益、経常利益、当期純利益で、増益を確保することができました。

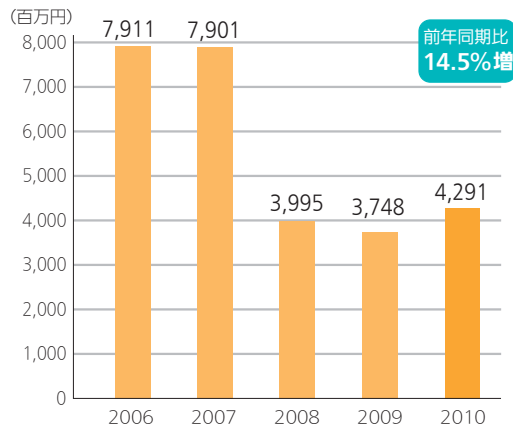
■ 連結売上高



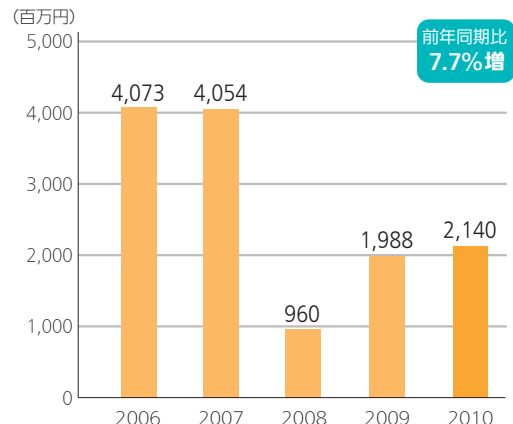
■ 連結営業利益



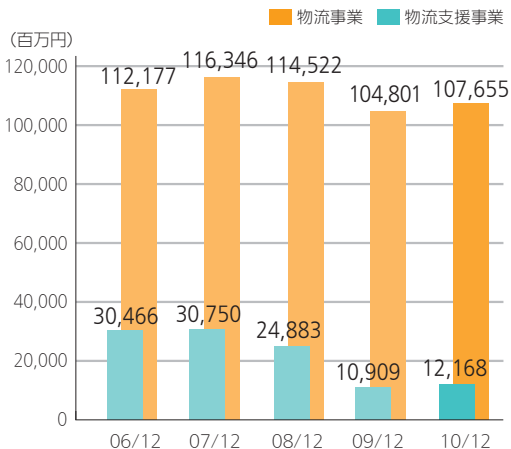
■ 連結経常利益



■ 連結当期純利益



■ セグメント別売上高

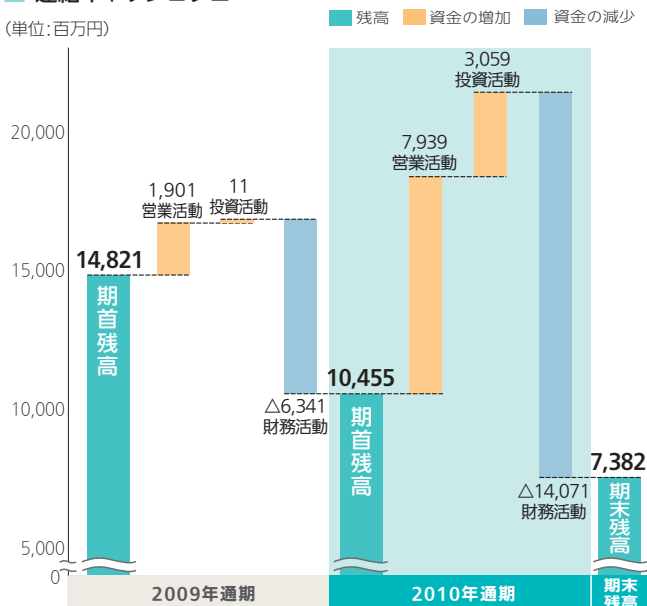


(単位:百万円)

	2010年通期		2009年通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
【物流事業】				
物流	107,655	2,886	104,801	2,699
【物流支援事業】				
マーケティング	1,880	42	3,572	31
人材	4,303	20	5,045	147
金融	5,348	1,199	1,670	403
その他	635	△14	620	△45
物流支援事業合計	12,168	1,376	10,909	189
合計(連結消去後)	119,824	4,262	115,710	2,888

■ 連結キャッシュフロー

(単位:百万円)



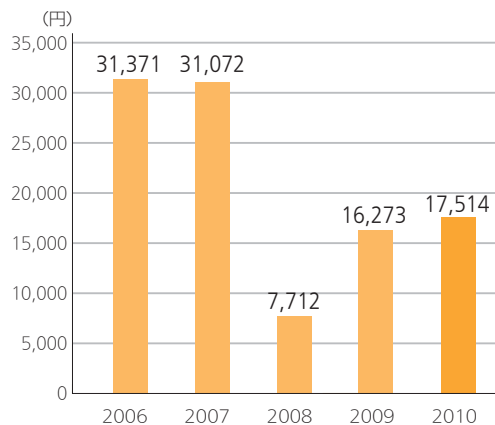
セグメント別売上高

- **物流事業**：前半の荷動きの回復・拡大基調や、新規顧客の3PL事業が立ち上がったことにより、売上高は増加しました。
- **物流支援事業**：金融事業セグメントにおいて、販売用物流不動産の一部売却により、売上高は増加しました。

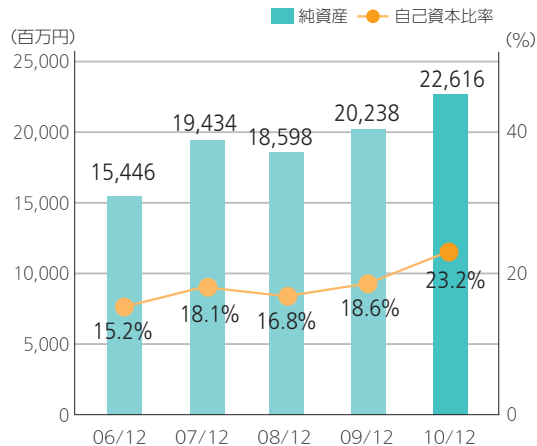
連結キャッシュフロー

好調な営業活動などにより営業キャッシュフローは79億3,900万円となりましたが、財務の健全化を図る目的で有利子負債の圧縮を積極的に進めたことから、当連結会計期末における現金及び現金同等物は73億8,200万円となりました。

■ 1株当たり連結当期純利益

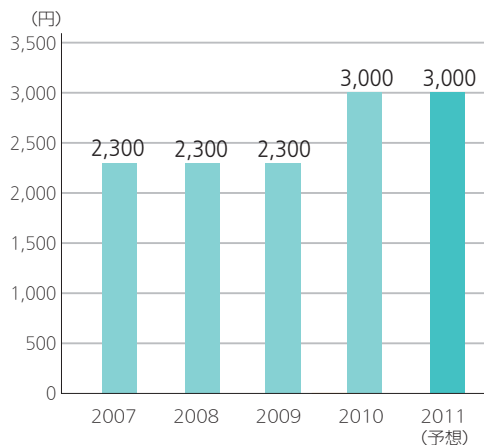


■ 純資産／自己資本比率



利益分配に関する基本方針及び1株当たり配当金

■ 1株当たり配当金の推移



利益分配に関する基本方針

SBSグループは、株主の皆様への利益還元を経営の最重要施策のひとつと位置付けております。より強固な経営基盤の構築と株主資本利益率の向上を図ることにより、業績や財務状況などを踏まえ、期初に開示した1株2,300円から700円増額し3,000円といたします。2011年12月期につきましても、同額の1株3,000円を予定しております。

会社概要 (2010年12月31日現在)

社名	SBSホールディングス株式会社
代表取締役	鎌田 正彦
創立	1987年12月16日
資本金	38億3,393万円
売上高	1,198億円(連結)
所在地	〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822
事業内容	物流事業、マーケティング事業、人材事業 他
主要連結子会社	ティーエルロジコム株式会社 フーズレック株式会社 株式会社全通 SBSロジテム株式会社 株式会社フォワード 株式会社ばむ マーケティングパートナー株式会社 SBSスタッフ株式会社 株式会社エーマックス SBSファイナンス株式会社 株式会社総合物流システム

役員 (2011年3月25日現在)

代表取締役	鎌田 正彦
常務取締役	入山 賢一
取締役	宮坂 文昭
取締役	渡邊 進一郎
常勤監査役	若林 民雄
監査役	正松本 重孝
監査役	竹田 正人
監査役	岩崎 二郎

監査役のうち、正松本重孝、竹田正人、岩崎二郎は社外監査役です。

株式の状況 (2010年12月31日現在)

発行可能株式総数	515,684株
発行済株式の総数	130,684株
	(自己株式2,856株を含む)
単元株制度の有無	無
株主数	3,911名

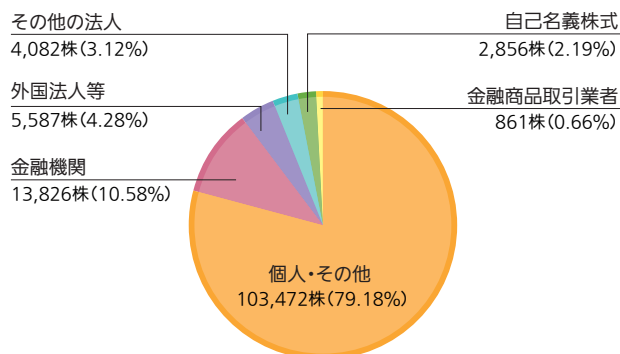
大株主の状況 (2010年12月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
鎌田 正彦	64,128	50.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,482	5.85
伊達 寛	4,348	3.40
SBSホールディングス従業員持株会	3,619	2.83
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニパス アカウント	3,348	2.61
大内 純一	3,094	2.42
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,026	2.36
吉岡 博之	1,889	1.47
株式会社スリーイーコーポレーション	1,560	1.22
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,055	0.82

※持株比率は自己株式(2,856株)を控除して計算しております。なお、自己株式には、従業員持株会信託口が保有する当社株式5,388株を含めておりません。

所有者別株式分布状況 (2010年12月31日現在)

(発行済株式総数: 130,684株)



株主メモ

事業年度 1月1日～12月31日

期末配当金受領株主確定日 12月31日

定時株主総会 毎年3月開催

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 大阪証券取引所 ジャスダック市場

公告方法 公告掲載URL <http://www.sbs-group.co.jp/>
※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、
日本経済新聞に公告いたします。

【ご注意】

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



SBSホールディングス株式会社

〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナスタワー
TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822

